

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2796300313		
法人名	株式会社誓歯会		
事業所名	グループホーム グローブハウス(ユニット1)【外部評価結果は2ユニット総合評価結果】		
所在地	堺市西区浜寺石津中2-6-28 あいあいビル		
自己評価作成日	令和4年10月24日	評価結果市町村受理日	令和4年11月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvoSoCd=2796300313-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人ば・まる
所在地	堺市堺区三宝町二丁目131番地2
訪問調査日	令和4年11月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居者様個々に合わせた支援をします
ホームがこの場所にあることを地域の方にも知って頂けるように地域活動にも参加します
ケアプランの評価を2カ月に1回行い、現状にあったケアを実践できるように取り組んでいます
コロナ禍でも楽しみごとを継続できるように普段から聞き取りを行いご家族様と連携しています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者個々と接する時間を大切にされています。毎月一回以上利用者個別の意向に沿った個別時間を確保されており、利用者がやりたいことの実現ができるよう配慮されています。コロナ禍の制限下において、従前のような外出は困難ですが、感染症対策に留意しながら日々の散歩や、近隣への外出機会の確保に努められており、外気に触れ、季節を感じて頂ける機会確保が行われています。施設内のスペースを活用しながら、イベント食・行事食の提供が行われており、利用者個々の食べられるものに配慮しながらも、楽しめる機会が創出されています。日常はおやつ作りを一緒に取り組んでおり、利用者の自主的な活動機会に繋げると共に、楽しめる機会確保へと配慮されています。面会制限等が続く中、利用者の家族等とはLINEを活用したこまめな情報提供、利用者の様子が伝わる画像や動画による情報提供に取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場 がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らして いる (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生き とした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出か けている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね 満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安 なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスに おおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔 軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	【外部評価結果は2ユニット総合評価結果である】	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設玄関、各フロア事務所に掲示し、職員の名札裏にも挟み意識できるようにしています	法人理念に沿った、施設独自の地域密着型を意識した理念が定められており、施設近隣での地域生活・地域活動を大切にされ、地域の一員として協働していく、ひらかれた施設としての活動を意識されています。理念は、施設だより等にも記載されており、家族等へも継続的な周知と意思表示が行われています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加しています、新春交歓会に参加し事業所の認知に努める コロナ禍前は、登下校時の見守り活動にも参加できていたが現状は参加を見合わせています 運営推進会議ができる限り対面で行い、地域との繋がりを残して参加できるタイミングを模索しています	コロナ禍の制限下において、従前のような活動は困難になっていますが、地域とのふれあい・交流を大切にされており、屋外での活動を中心に可能な範囲で継続されています。従前は、学校との相互交流や地域の見守り活動等、積極的な展開が行われていました。制限解除に伴い、可能な範囲から活動の再開、また、制限下でも可能な活動の模索に努められています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は戦争体験を話すことを年間行事の取り組みとして小学校との交流がありましたが、コロナ禍で双方控えています 散歩の際など積極的に地域の方にお声掛けしています 地域の町会長さんがデイサービスで運転手しているので情報収集や情報発信を心がけています	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月の第3月曜日に開催しています 世間の情勢を踏まえ、書面開催にすることもありますが、民生委員・地域包括・ご家族様・他施設管理者にご参加いただき、意見や助言をサービスに活かしています	コロナ禍の制限下において、対面での開催が困難な状況が続いていますが、書面による開催が行われており、事前の情報提供を踏まえた、意見や情報交換を書面で頂く形で開催されていました。制限解除の狭間では、対面による開催にも取り組まれています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	基幹型包括を中心とした、もんじゅの会(他職種協働の事例検討会)にも参加させて頂き顔の見える関係を築き、年4回勉強会に参加して知識を深め共有しています	地域包括支援センターを中心に、情報交換・情報共有・勉強会等が行われています。事例検討会にも参加されており、地域課題の把握や検討にも参加されています。従前は、地域包括支援センター主催のイベントや地域活動にも参加されていました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入職時の研修から始め、エレベーターや玄関、フロアの扉など施錠は一切行わず、身体拘束の意味や弊害についても理解をしている 身体拘束適正化に向けた委員会の実施をしている(年4回) 職員への身体拘束、虐待防止の取り組みを内部、外部研修している(年2回程度)	身体拘束並びに虐待にかかる適正化委員会が年4回開催されています。年2回の職員研修が実施されています。施設内研修では、職員個々が自分自身の支援を振り返り、再確認することによって、拘束や虐待に繋がる支援を排除できるよう努められています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修を行い自分の言動を再確認できるようにしている 各フロアにも虐待防止法の資料を置き、いつでも閲覧できるようにしている 職員の出勤時には事務所にいる時間を多くして、職員の疲労度の確認やその日に起きたことはその日に解決できるように周知している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	司法書士の方に制度を学びながら対象者がおられたらアドバイスを頂いています 必要があれば、地域包括支援センターに相談できる体制がある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、書面を見ながら口頭で説明しご理解いただいたうえでサインを頂いています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時のお声掛けや、キーパーソンのご家族様とはLINEで皆様繋がっており、連絡を気軽に取れるように心がけています	面会制限が続く中、家族とLINEで繋がる事によって、情報交換・情報共有の継続が行われています。家族等と対話できる機会を継続することによって、意見等の聴取にも繋がられています。家族等の意見を踏まえ、画像や動画の情報提供寮の拡充、日常の様子情報の提供拡充に繋がられています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	気になったことはすぐ言葉にできるよう、声をかけています 月1回フロアごとの会議を行い、個別では年2回ヒアリングし意見や提案を聞き反映できるようにしています	年2回の職員個別面談が行われており、職員の意向や目標の把握に繋がられています。面談にあたり、職員の事前アンケートも行われており、アンケート内容も踏まえた話し合いが行われています。毎月のフロア会議の内容も意見聴取へと繋がられています。職員の意見を踏まえ、業務改善・業務の効率化へと繋げていく取組内容が確認できました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回代表者会議で、勤務実態や職員の現状報告を行ない、評価するべき点は報酬などで加味して向上心を持てるように工夫している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修や勉強会への参加機会を作りスキルアップできるように進めている 初任者研修や実務者研修の資格取得支援をし、見える形での成長を心がけています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	Zoomで月1回西区グループホーム連絡会を行い情報交換をしています 困りごとの共有や報告を行っています 堺市全区ともグループLINEでも繋がって必要時には情報発信しています		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様など本人に関係する方々からの情報を活かして、会話の中で不安点など聞き出すように工夫している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご見学やご契約、入居前には今まで済まされていたご自宅訪問をさせて頂き、情報収集し要望を聞けるようにしています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員間で優先順位を見極め共有し、まず何が必要なのか把握できるようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることは行い、できないことは手伝いながら行うなど残存能力を活かし役割を持ち、日常生活を送ることができるよう支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や、LINEでも積極的にご報告を行ないともに支えていく関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室など、ご入居前から関係性のあるお店や人に連絡し支援できるようにしている	外出の際は、馴染みの場所や近隣等と接する機会を、可能な範囲で確保されています。コロナ禍の制限下において、電話や手紙による交流継続の拡大を意識した支援の提供に努められています。制限解除の狭間では、可能な範囲の面会再開にも取り組まれています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	少しの言動でトラブルになる場合もあるので、感染症対策に気を付けながら座る場所を考慮し、ご利用者様同士が関わられるよう配慮している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても継続的に支援できる体制は取っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の何気ない会話から、意向や思いを汲み取るようにしている コロナ禍で気軽に出かけられないようになっていますが、面会時の差し入れを本人の希望するものをお声させていただいている	日常の何気ない会話や、表情、反応を意識して感じ取ることで、利用者の意向や思いに近づけられるよう配慮されています。新しく把握できた内容は、記録に追記するなど、情報の共有に努められています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様やケアマネージャーからの情報を元に、ご本人様とどのように接して、どのようなサービスが良いのかを検討しています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝日勤帯のメンバーでミーティングし、一日の予定など確認 その時にご入居者様の体調や意向も再確認している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者一人に対して、職員一人が担当を持ちケアマネを交えモニタリングを2か月に1回行いケアプランを見直している	ケアプランの更新時には、担当職員をサービス複数職員の話し合いで、モニタリング評価が行われ、次の計画の策定へと繋がられています。利用者の意向は、担当職員が聴取または把握し、ケアプランへ反映されるよう努められています。	利用者自身も評価可能な、目的意識を持てる計画の拡充が望まれます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常は個別経過記録に記載し、提案などは申し送り帳等で共有し、介護計画の見直しに活かしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療保険からの訪問施術なども取り入れ、あらゆるサービスの提供を心がけています		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のゴミ拾いや避難訓練などに参加し、地域で生活していることを認識しています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科は隔週火曜日 歯科は毎週月曜日 訪問看護は隔週各階に訪問して健康の確認を行っている	入居時には、利用者・家族の意向に沿った、かかりつけ医の選択が行われています。提携医療機関からは、2週間に一回の内科受診があります。毎週歯科受診が行われています。内科受診のない週には、訪問看護による健康確認が行われています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	内科医の看護師や訪問看護師は携帯電話やLINEを活用し連絡を取り指示を仰ぐようにしている ホーム内では医療連携ノートを通じて、看護と介護の情報共有も行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	近隣の医療関係者とも日常から連携し情報収集に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に看取りの方針、意向の確認を行い、入居後も定期的に確認しながらチームとして方針の共有をしている	終末期に向けた指針が定められており、説明され同意が得られています。看取り対応時には、主治医を含めた相談が行われ、終末期の支援計画が作成されています。	入所早期からの、重度化・終末期に向けた、継続的な利用者本人の意思意向確認拡充が望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入職者は順に救命救急講習を受講していたが、コロナ禍で開催していない 時期もあった 消防署より訪問していただき集団での指導は12月を予定している	/	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内で年2回消防訓練実施している 年1回地域での津波訓練があり、ADL自立の方中心に参加をしている		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の方に合わせた言葉かけを行いプライバシーの配慮を意識し対応を行っている	利用者個々の価値観に沿った、尊厳の維持が出来るよう、言葉かけや接し方に留意されています。電話等は利用者間のプライバシー侵害にも配慮し、個々のスペースが確保できる状況での会話確保に努められています。羞恥心・自尊心に配慮した、言葉かけを心がけられています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の何気ない会話から、意向や思いを汲み取るようにしている 自己決定出来る方には、選択肢を示し説明しながら決定を促しています	/	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様優先の介護をケアプランで作成し、会議時など定期的に確認している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の意向に沿えるよう、入浴後の着替えを職員と一緒に選ばれたり身だしなみの支援も行っている 気に入っていた服を家族様に聞き取りながら持参していただいたり、購入する際も参考にしている	/	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご飯は炊いているのでお米研ぎはしていただきおかずは湯煎するものを外注しているので、盛り付けを一緒に行っている 食後の下膳も見守りの元行ったり、洗い物やお盆拭きも手伝って頂いている	歯科医師との連携によって、嚥下咀嚼機能の維持改善に繋げていくことが出来るように努められています。不定期の行事食・イベント食では、利用者個々の嗜好も踏まえ、皆が楽しめる機会の確保に繋がっています。日常は、おやつ作りを一緒に行い、利用者の自主的な活動機会に繋げると共に、楽しめる機会確保へと配慮されています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量や摂取形態、嫌いな物は提供しない、お好みのカップやお箸をご利用していただいたり少しでも楽しみを継続して頂いている 水分量は毎時間確認し提供している、少ない方には嗜好品の提供で摂取していただくようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週の歯科往診の際に口腔内確認していただいている 普段は毎食後のうがいや口腔ケアを洗面所や自席で行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	表を作成し、トイレ誘導などの時間やタイミングを見計らい失禁を減らす支援を行っている 朝の体操時には骨盤底筋体操も取り入れている	排泄自立を少しでも長く維持継続出来るよう、利用者自身が自発的な排泄をスムーズに行う機会確保に努められています。体操等も取り入れ、排泄能力の維持に配慮されています。利用者に羞恥心を抱かせない声かけや誘導に配慮されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼りすぎず、食生活や運動、水分量などで対策を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご入居者様と確認をしながら週に2~3回入浴できるように入浴していただく 浴槽に入る時は二人介助したり、必要であればデイサービスの機械浴も活用できる体制を取っている	予定入浴が基本ですが、利用者の意向や様子を踏まえながら、利用者の意向に沿った入浴タイミングでの入浴にも対応されています。入浴介助は、利用者の意向を踏まえた支援・介助内容を大切にされており、羞恥心や自尊心に配慮した対応が心がけられています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間眠れない方にはお茶など飲んで頂きながら不安な点を傾聴したり安心して頂けるように支援する		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師と連携し、個々の服薬内容の確認を医療連携ノードで行い、日々の状態変化に対応している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご入居前の生活歴や楽しみごとを元に、環境をできる限り変えずに、ご本人のできること、役割を持って頂き支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出を制限せざる負えない状況になっています 毎日の散歩だけは継続して行っています。またYouTubeを活用しながら思い出の風景や、昔ながらの景色など楽しんで頂きお出かけできる状況になれば出ていけるように意欲低下しないように楽しみを持っていただいている	コロナ禍の制限下において、従前のような外出は困難な状況ですが、近隣への散歩を継続することで、外気に触れる機会、季節を感じる機会の確保に配慮されています。可能な範囲内での、馴染みの場所への外出機会の拡充が出来るように努められています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お買い物など外出時には自分のお金を持っていただいたり、不安を訴えられる方には、事務所で預かっている旨実際にお金を見せて確認して頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	職員がパイプ役となりやりとりがスムーズにできるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアーにはカレンダーや季節の掲示を行なっている 電車や車の往来が近くであるも気にならない騒音になっている	利用者が季節を感じられる手作りの装飾を意識されています。季節感や時間の経過を意識できるよう、大きな手作りカレンダーが掲示されており、日々の経過や季節を確認できるよう配慮されています。気分転換を兼ねて、季節毎や随時に共用空間の備品等の配置換えが行われており、その時々利用者それぞれが過ごしやすい空間作りに努められています。利用者個々の居心地を大切に居場所づくりが意識されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	いすや机の配置も考慮して気の合った者同士が過ごすことが出来るように工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お部屋には私物を持ち来んで頂き、入居前と変わらない環境作りをして混乱なく過ごして頂けるように支援している	居室への持ち込み品は自由ですが、従前と変わらない環境作り、かつ利用者が感じている居場所の価値観を踏まえた環境作りを心がけられており、利用者が一人が過ごす際に、落ち着いた安心できる空間となるよう配慮されています。利用者の運動能力・生活能力を踏まえた、安全確保や動線確保を意識した、備品や家具の配置が行われています。居室入り口には、利用者個々が、自分の部屋としてわかる装飾や表札等が表示されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室の表示をし、センサーを活用し見守りを確認、安全の工夫をしている		